

静岡県の気候変動影響と適応取組方針(2019.3)の概要

・気候変動の影響は既に現れ始めており、今後、世界全体で厳しい温室効果ガスの削減が実施されたとしても一定程度の気温上昇は避けることはできない。
 ・本県における気候変動の影響による被害を可能な限り軽減し、環境・経済・社会の持続的向上を図るため、適応取組方針を策定する。
 ・今後は、温室効果ガスを削減する「緩和」と「適応」を気候変動対策の車の両輪として推進する。

背景

- ・世界平均気温は、既に0.85℃上昇、21世紀末には最大で4.8℃上昇。
 ※ IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第5次報告書
- ・極端な高温や大雨など気候変動のリスクが増加し、今後厳しい温暖化対策を行ったとしても、気候変動の影響は避けられない。
- ・地域ごとに異なる影響に対して、地域ごとに適応を進める必要がある。

期間・位置付け

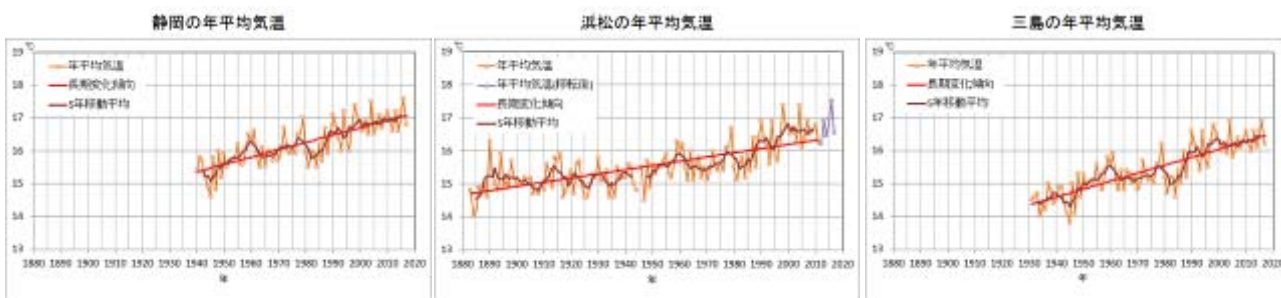
- ・気候変動の影響について今世紀末までの長期的な展望を意識しつつ、2019年度から2030年度までの施策の基本的取組方針を示す。
- ・気候変動適応法第12条に規定する「地域気候変動適応計画」として位置づけ、「改定版ふじのくに地球温暖化対策実行計画」(緩和策)と連携し、適応の面から地球温暖化対策を推進。

基本的方向(目指す姿)

- ・この方針の推進により気候変動影響による被害の回避・軽減を図るとともに、気候変動のリスクや適応に関する情報を収集・発信し、県民や事業者の理解や行動を促進。
- ・目標年度である2030年度には、影響が予測される各分野に対し、影響の予測の精度を高めながら、適応を推進。

県内の気候変動の現状

- ・気候変動の影響により、100年あたりの推計値で、静岡市で+2.2℃、浜松市で+2.1℃、三島市で+2.4℃といずれの地点でも気温が上昇(ヒートアイランド等影響含む)。
- ・真夏日・猛暑日・熱帯夜も増加傾向。冬日は減少傾向。


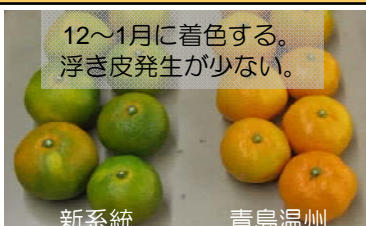
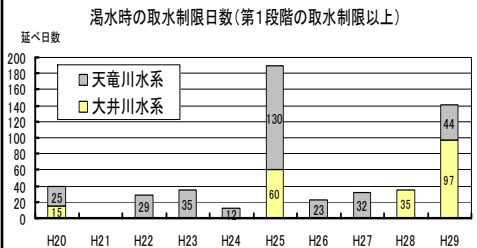



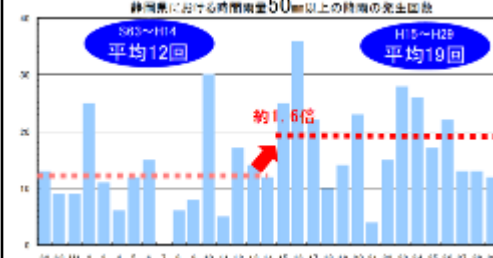



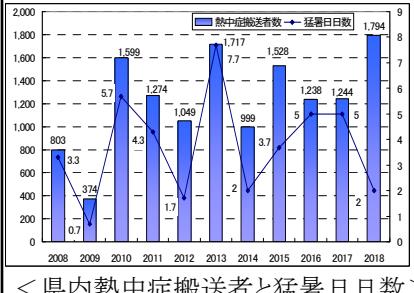



県内の気候変動の将来予測(気象庁)

予測	平均気温	真夏日	冬日	短時間強雨回数
今世紀末	+3℃	+40日	-20日	3~4倍

※RCP6.0相当のシナリオでの現在気候(1980~1999)と比べた将来気候(2076~2095)の予測(RCP6.0:IPCCが設定した温暖化対策の程度に応じた4つの温室効果ガス排出シナリオのうち、ほぼ中間の排出量のシナリオ)
 ・現在の静岡市にあてはめた場合
 年平均気温は現在16.5℃ → 今世紀末19.5℃ = 屋久島と同程度の年平均気温
 年間で最も暑い8月の平均気温は現在約27℃ → 今世紀末約30℃

本県における主な気候変動の影響と適応策

分野	主な影響	主な適応策
1.農林水産業	 <p>①米、②ワサビ、③ミカン、④茶等の品質低下のおそれ ⑤藻場が衰退する磯焼けの発生</p> <p><浮き皮が発生した温州みかん></p>	<p>①②③高温耐性品種の開発・普及、③④高温軽減技術の開発、普及、⑤植食性魚類の駆除等</p> <p><開発中の貯蔵性が高い超晩生温州みかん系統></p>  <p>12~1月に着色する。浮き皮発生が少ない。 新系統 青島温州</p>
2.水環境	 <p>①水質の悪化、②年降水量の変動幅増大と渇水発生</p> <p><渇水時の取水制限日数></p>	<p>①水質監視と汚濁原因究明 ②水資源確保に向けた調整・普及啓発、森林整備・保全により水源かん養機能向上</p> <p><水利調整協議会による利害関係者の調整></p> 
3.自然生態系	 <p>①高山植物の衰退、②ニホンジカ・イノシシの分布拡大による農林産物や自然植生への影響</p> <p><中山間地の有害鳥獣被害></p>	<p>①有害鳥獣による食害等被害防止対策、②個体数調整や狩猟規制の緩和</p> <p><南アルプスの防護柵設置状況></p> 
4.自然災害	 <p>局地的豪雨等による①浸水被害、②土砂災害等の発生リスク増加</p>	<p>①貯留・排水強化や危機管理型水位計等を組み合わせた総合的治水対策、②施設整備・危険箇所の周知等による総合的土砂災害対策</p> <p><豪雨災害対策アクションプラン(抜粋)・危機管理型水位計></p>   <p>校庭貯留施設の整備</p>  <p>雨水貯留施設の整備</p>
5.健康、6.経済・都市生活	 <p>①熱中症リスク増加、②デング熱等を媒介するヒトスジシマカの分布域拡大、③電力供給ピーク先鋭化</p> <p><県内熱中症搬送者と猛暑日日数></p>	<p>①芝生緑化活動促進、熱中症予防のための注意喚起、学校での早期の空調整備 ②ヒトスジシマカの生息状況・ウイルス保有調査の実施、③地産地消型バーチャルパワープラントの構築</p> <p><地域と連携した園庭の芝生緑化></p> 

県民・事業者の適応取組事例

区分	適応の取組事例
県民	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時からハザードマップや避難経路確認、避難訓練への積極的参加 ・こまめな水分補給、塩分補給など熱中症予防対策
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に備え、BCP(事業継続計画)の策定 ・暑熱対応製品の開発等

適応の推進体制

